

【資料1】

平成29年度 佐賀市立久保泉小学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>元気あふれる学校 ～夢をもち進んで学ぶ、心やさしい子どもの育成～</p>

<p>2 学校経営ビジョン</p> <p>(めざす児童像)「夢をもち進んで学ぶ、心やさしい子」 「知」 ○かしこい子 ・意欲を持って学習に取り組み、確かな学力を身につけた子 ・自分の考えを表現し、互いに学びあう子 ・家庭学習や読書の習慣が身につけている子</p> <p>「徳」 ○やさしい子 ・思いやりの心を持ち、友だちとなかよく活動する子 ・よいことを進んでする子 ・きまりやマナーを守る子</p> <p>「体」「耐」 ○たくましい子 ・めあてをもって最後までがんばる子 ・進んで元気に気持ちよいあいさつができる子 ・進んで健康で安全な生活を実践できる子</p> <p>(めざす学校像)「活気あふれる学校」 ・子どもの学ぶ意欲を高め、学力の向上をめざす学校 ・子どものよさや頑張りを称賛し、自己肯定感を高める学校 ・地域に開かれ、ふるさとを誇りに思う子どもを育てる学校</p> <p>(めざす教師像)「学び続ける教師」 ・子どもと誠実に向き合う、温かい教師 ・情熱と使命感をもち、学び続ける教師 ・チームでの役割を自覚し、協働する教師</p>
--

<p>3 本年度の重点目標</p> <p>1 雄飛学園教育を推進する。 ・開発的生徒指導(出番・役割・承認)を推進する。 ・幼保小連携や9年間を見通した小中連携を推進する。</p> <p>2 学力向上を図る。 ・「雄飛学園メソッド」による9年間を見通した学習習慣の定着を図る。 ・国語科の授業実践を通じた校内研究の充実を図り、指導法の改善を図る。 ・読書活動推進の方策を工夫し、読書に親しむ児童を育成する。</p> <p>3 いのちと人権教育を推進する。 ・自分を大切に、友達を大切にする子どもの育成を図る。 ・一人一人の子どもの理解と心の教育を充実させる。 ・支援を要する子どもへの校内体制を充実させる。</p> <p>4 3つの「あ」(あいさつ・あんぜん・ありがとう)の推進。</p> <p>5 子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する。 ・活動や行事の中で子どもの出番を広げていく。</p>	<p>4 前年度の成果と課題</p> <p>・雄飛学園として長年継続しているものでも、小学校・中学校の特性や児童の発達段階に合わせた手立てをさらに工夫する必要がある。</p> <p>・ここ数年継続して重点的に取り組んできた「学力向上」「読書活動の充実」「特別支援教育の推進」では領域ごとに成果と課題に差が出てきている。「学力向上」では、「学び方」や「学習意欲」として一定の成果を見るようになったが、思考力、表現力の面では課題が残った。</p> <p>・児童は、心やさしく穏やかである。「生命尊重」「人権尊重」の教育をより推進する必要がある。</p> <p>・交通安全に対する意識は高まっているが、防災意識、危険回避力を高めるようにする。</p> <p>・地域との関係は密接で良好である。地域行事・学校行事の調和をとってこのまま交流を推進する。</p>
---	---

5 総括表

① 学力向上を図る

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	●学力の向上1	学力向上と学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりが主体的に考えを表現し合い、学び合う小集団の中で思考をつなぎ、学力向上を図る方策を探る。 ・国語科で、市販テストの3分の1の単元で全員70点以上を目指す。 	確かな学び部(研究主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心に、学習における見通しをもたせ、根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力の育成について校内研究を進め、互いの実践を交流する。 ・スキル習得のため、のびるタイムを充実させる。 ・雄飛メソッドを推進させる。 ・ノート指導を徹底する。
教育活動	●学力の向上2	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の貸し出し数を低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊以上で、80%達成を目指す。また、家で読書をする習慣をつける。 ・「図書館活用のでびき」「読書ノート」を活用し、親書の態度を身につける。 	確かな学び部(図書館)	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を活性化させるイベントや企画、各教科との関連図書とのタイアップ活動を行う。 ・家庭と連携(まなざしカードや家庭学習)して、土・日の宿題に読書を入れる。 ・週末の読書実施について調査し、実態を児童・保護者に広報する。 ・週に1回以上図書館に行く時間を設定する。
	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICTを手段とした「わかる授業」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にICT機器を活用した授業を展開し、授業がよく分かるという児童の割合、80%以上を目指す。 ・教員のICT利活用指導力の向上を図るために、校内研究と連携して職員研修を実施する。 	情報教育担当	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘し、効果的なICT利活用法についての職員研修を行う。 ・ICT支援員と連携し、授業に役立つ実践的なICTの活用について研修を行う。

② 雄飛学園の教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○小中連携	雄飛学園構想に基づいた小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学び部」「すこやかな育ち部」「豊かな心部」の3部会毎に合同の研修会や授業研究会を定期的に行い職員の学校経営参画意識を高める。 ・連携校の「授業研究会」にへそれぞれ1回以上参加し、連携教育の理念の共有意識を高める。 	教務	<ul style="list-style-type: none"> ・雄飛学園メソッドに基づいて、学習習慣、規範意識の定着に向けて共通した取組を推進する。 ・学力向上、生活指導、教育相談、特別支援教育、人権・同和教育の各部会で、三校で情報交換をしたり、合同研修会をもちたりする。
③ 命と人権・同和教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立 体力の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに手を洗う習慣、ハンカチを身につけさせるなど衛生習慣を定着させる。 ・はやね・早起き・朝ごはんの習慣化を図る。 	任すこ 養や 護か 教な 諭ち 食部 育(担 体主)	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに手を洗う習慣を身につけさせるために、強化週間を設ける。 ・まなざしカードを使って、実態を把握する。リズムある生活を身につけさせるために、週の初めに学級指導を行う。
	●いじめ問題への対応	人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を充実させ、「いじめのない学校を創る」という意識を高める。 ・いじめや問題行動に対して組織で対応できる体制作りをする。 		豊か 和な 教心 育部 担(人 権・ 同)
	●心の教育	教育相談・特別支援教育の充実(支援体制強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・特別支援対象児童の共通理解と支援体制強化を図り、個性や多様性を尊重する風土を創る。 	豊か な 支 援 心 部 担(特 支)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級や特別支援学級間の連携を密に行う。 ・発達障害についての理解を深める研修を行う。 ・支援会議を計画的に開催する。 ・保護者向けの研修会を開催する。
④ 子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	○特別活動1	児童会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会で決めたことについて、一人一人が出番・役割を意識しながら意欲的に取り組ませ、達成感を育てる。 	す (こ や 活 か 主 任 育 ち 部)	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会でできたことを運営委員が中心となって全校児童が活動しやすいように伝える。 ・一人一役の出番や役割を持たせ、承認カードを活用して頑張ったことを承認する。
	○特別活動2	環境教育の充実(環境ISO)	<ul style="list-style-type: none"> ・90%以上の子どもが環境を守る行動をすることができるようにする。 	部 す (こ 環 が 教 な 育 担 ち)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会が中心となって、各学年の毎週の取組状況を伝える。 ・学校での取り組みの様子を地域・家庭に機会ある毎に発信する。
	○地域連携	まなざし運動と市民性を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のまなざし運動と連携し、市民性を育む教育を推進することによって、市民の一員としての意識の向上をめざす。 	教 頭	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事には、積極的に参加するようにさせ、行事の意義を指導したり、参加後に称賛したりする。 ・生活科・総合的な学習の時間では、まなざし運動を展開する地域の人・団体・施設と年に2回以上は連携する。(久保泉公民館、桂寿苑などの福祉施設、地域ボランティア団体、えひめあやめ保全会、JA青年部、長寿会等)

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○学校経営方針の周知	本年度の学校教育目標・経営ビジョン・重点目標の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、児童、教職員、学校評議員、地域の方々に周知徹底し、認知度95%以上をめざす。 	校長・教頭	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標を校内、各教室に掲示をし意識の高める。 保護者・地域の方には、学校パンフレット、学校便り、ホームページ、PTA総会、学校評価アンケート、学校評価ダイジェスト版等で周知する。 教職員には、職員会議や三部会等での活動を通して共通理解を図る。 学校評議員の方へは、評議員会、学校便り、学校関係者評価のための資料提供等で周知する。
教育活動	○危機管理体制の整備	危機管理体制の確立と実効的な運用	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故0をめざす。 状況に応じて危機管理マニュアルの見直しを行い、予告なしの避難訓練もあわせて実施する。 	豊かな心部・教頭	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全に向けて、自転車使用時のヘルメット着用率100%を継続する。 地震災害の避難マニュアルを点検し、避難訓練に生かす。3学期に予告なしの避難訓練を行う。 黄色い帽子と防犯ブザーの携行を一斉下校時にチェックし、全学級で指導する。

●は必須項目、◎は特定課題、○は独自評価項目